

【幌延町】
校務DX計画

本町においては、1人1台端末の導入後、端末活用推進に必要な授業支援ツールやデジタルコンテンツ、校務の効率化を図る校務支援システム、連絡網ツール等の整備を行ってきた。各学校では、それらの活用が実態に応じて推進されるとともに、町情報教育センター等を中心に、活用事例等が共有されている。

今後は、文部科学省の公表する「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に示されている教育委員会及び学校が教育DXを推進する際に取り組むことが望ましい項目の実現のため、次に掲げる事項に配慮しながら、令和10年に義務教育学校が開校予定であることも踏まえて、引き続き取組を推進していく。

1 WEB会議ツール（遠隔・オンライン）等の活用推進

本町においては、幌延地区と間寒別地区にそれぞれ、小学校2校、中学校2校があり、地区間の距離は30kmにわたるため、町内において実施する会議や研修の全てを集合形式で実施することは、時間的にも費用的にも負担が大きいと考えられる。そのため、オンライン形式で実施が可能で、効果的にも保障できるものについては、積極的にWEB会議ツール等を活用していく。また、現在、町内においては、免許外教科担任を支援する遠隔授業も通年で実施しているため、今後も実施する場合には、教科・単元の目標が達成できるものについて、オンライン形式で実施することで、授業を配信する教員の負担軽減を図っていく。

2 ペーパーレスの推進とFAX・押印等の制度の原則廃止

現在、町内学校において、校内の職員会議等において校務サーバーやクラウドサービス、Googleサイトの活用等によりペーパーレス化が推進されている。

今後は、教育委員会として校務DXの推進をする上で学校管理規則やクラウドサービスの設定等を含めた活用環境の見直しすることにより、学校現場と連携してペーパーレス化に取り組みやすい環境を構築していく。

3 教育情報セキュリティポリシーの策定

国の方針や現状を踏まえ、クラウド上のデータやクラウドサービスを活用することを前提とした教育情報セキュリティポリシーを策定する。また、デジタル化の進展に伴い、児童生徒や教職員の個人情報漏洩やデータ改ざんのリスク増大が懸念されることから、学校に対して周知・徹底を図っていく。

4 ゼロトラスト環境の構築

「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」等により示されているゼロトラストセキュリティの考え方に基づいた統合型ネットワークの整備について検討し、段階的に進める。